

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■事務事業の概要

1－1 事務事業の名称		学校等における啓発講座実施事業								
1－2 担当		部	市民部	課 又は施設	市民協働課	係	市民活動推進係	評価票作成者	男女共同・多文化共生担当係長 馬場千春	
1－3 総合計画における施策の体系	①節	交流と市民参加 「市民と行政が尊重しあう協働のまちづくり」				③基本施策	男女共同参画		コード	5－1－4
						④単位施策(中)	意識啓発		コード	5－1－4－1
	②項	参加と協働				⑤単位施策(小)	学校等での教育の充実		コード	5－1－4－1－3
1－4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市内小学生・中学生			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	児童・生徒に対し、男・女の違いや個性・特性を理解させ、お互いを認め合い、自分も他人も大切にする考えを学ぶ中で、男女共同参画の考えを身に付けさせる。				
1－5 事務事業の内容	児童・生徒が自分自身のことをよく知り、自分のことを大切に思えるようなきっかけづくりをするとともに、性に対する正しい知識や男女共同参画の基本的な考え方を身に付けることができるよう講座等で啓発や情報の提供を行う。									

2 ■事務事業実施の状況

2－1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	保健師や助産師を講師とし、教師ではない視点から性について理解させるとともに、生命とは何かを学習させる。			いじめ・自殺問題等が相次ぐ中、子どもたち自身へ、自分の命の大切さ、人の命の大切さについて学ばせることができた。			性に対する正しい知識と命の大切さについての教育には大いに目が向けられ、講座への新聞取材等もあり、市民の関心は高い。		
	平成19年度	小・中学生には、保健師や助産師を講師として、性と生命について理解させ、高校生にはデートDVについても併せて考える機会を与える。			正しい性の知識と命の大切さに気づくことは、家庭教育だけでなく学校での教育が必要です。また、意識向上のため、小中学校に男女共同参画標語を募集した。			正しい性の知識、命の大切さについての教育的意義は極めて大きい。男女共同参画の推進のためには、学校教育の関与は不可欠である。		
	平成20年度	小・中学生、高校生に保健師や助産師を講師として、性と生命の大切さについて理解させた。高校生向きに「高校生の恋愛とデートDV」の講演会を開催した。			適正な時期に家庭教育だけではなく、学校教育でも命の大切さや性に対する知識を継続的に学ばせることが必要である。意識向上のため、小中学校に男女共同参画標語を募集した。			命の大切さや性に対する知識を継続的に学ばせることが必要である。継続的に学ばせるには、学校教育の関与が不可欠である。		
	平成21年度	小・中学生には、「いのちの尊重事業」が、3年間の協働事業の試行期間を経て健康課の自主事業になり継続的に開催されることになったことは、意識啓発には効果的である。大学生向きに「恋愛とデートDV」の講座を開催した。			適正な時期に命の大切さを家庭教育だけでなく学校での教育も必要である。また、意識向上のため、小中学校に男女共同参画標語を募集することで考えるきっかけづくりをした。			正しい性の知識、命の大切さを継続的に学ばせることが必要である。教育的意義は極めて大きい。男女共同参画の推進のためには、学校教育の関与は不可欠である。		
	平成22年度	男女の違いや個性・特性、命の大切さについて学ぶことの意義は極めて大きい。正しい性の知識と命の大切さに気づくことは、家庭教育だけでなく学校での教育も必要であり、男女共同参画推進には学校教育の関与は不可欠である。								
	平成23年度	小・中学校での「いのちの尊重事業」が健康課の事業として継続的に開催されることは意識啓発には効果的である。命の大切さや性に対する知識を継続的に学ばせることが必要である。継続的に学ばせるには、学校教育の関与が不可欠である。また、大学生向きに「恋愛とデートDV」の講座を開催した。								
	平成24年度	市内の小中学生から男女共同参画川柳・標語を募集することで、家庭や学校、身近なくらしの中での男女共同参画について理解を深め、男女共同参画社会の実現に近づけるよう考えるきっかけづくりをした。また、小中学校での「いのちの尊重事業」が継続的に開催されており、意識啓発には効果的である。								
	平成25年度									
	平成26年度									
	平成27年度									

2－2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	情報の提供及び講座実施回数			6(回)	12(回)	「いのちの尊重事業」の実施は、健康課との合同事業で、毎年小学校3校・中学校1校を対象に実施予定だが、3年を経過して継続の見直しを検討予定。 その他、学校への情報提供や事業依頼などによる回数をカウントする。					
2－3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績a(単位)	5(回)	7(回)	8(回)	3(回)	2(回)	3(回)	1(回)			
	直接事業費b(千円)	100	101	112	80	56	80	30			
	人件費c(千円)	32	90	269	179	112	108	96			
	合計コストd(b+c)(千円)	132	191	381	259	168	188	126			
	単位コストd/a(千円)	回当たり26	回当たり27	回当たり48	回当たり86	回当たり84	回当たり62.6	1回当たり126	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → a：児童・生徒及び学生向けの講座は開催せず、川柳・標語の募集を市内の小中学校に行った。1回（小中学生の応募作品数：1,979点）

b：川柳・標語選考審査員謝礼 2,000円×2人、入賞者（9人分）記念品 26,000円

c：16H×2人×3,000円＝96,000円（事前に川柳・標語を絞り込む事務に時間がかかった。）

2－4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績（回）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		5	7	8	3	2	3	1			
	後期目標値 に対する達 成度（％）	41.7	58.3	66.7	25.0	16.7	25.0	8.3			

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3－1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A	B			

- 4 段階評価結果
- A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- ①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3－2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
平成18年度	児童・生徒への啓発は市民協働課だけでは限界もあり、健康課との協働だけでなく、学校教育課・児童福祉課との連携も図りたい。	児童・生徒への啓発は健康課との協働だけでなく、学校教育課との連携が必要。高校などとの連携においては、教育委員会の積極的関与も期待したい。	学校等における啓発活動は、各担当課や教育委員会の連携が必要になるため、協力を期待する。	平成21年度
平成19年度				
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4－1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	平成19年度	平成20年度
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	B	他の部署と連携を図りながら新たな啓発方法を検討すること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			